

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
501	学際領域演習 I (生駒美喜)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	生駒 美喜
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

話しことばと現代社会

## 授業概要 Course Outline

私たちは現代社会のあらゆる場面で、話しことばの音声を聞いたり発したりして生活しています。

たとえば、授業中の先生の話、講演会、友人や家族との様々な場所・場面での会話、電話やオンラインツールを用いた会話、駅や電車のアナウンス、店員との会話、政治家のスピーチや討論、選挙演説、ニュース音声、オリンピックなどのスポーツ解説、スポーツ選手のコメント、テレビ番組や映画での会話、漫才の対話、アニメの声、詩の朗読、様々な方言、外国語の音声など。また、話しことばに近いものとしては、SNSでのチャットやスタンプ、絵文字などがあります。

話しことばの音声は、言語的な情報を伝達するだけでなく、話し手の感情やニュアンスや発話意図なども伝達します。

話しことばの音声は、皆さんの専門分野である政治学や経済学をはじめ、様々な学問領域とも密接に結びついています。

この演習では、以上挙げたような現代社会における話しことばに着目した研究を行います。

話しことばを科学的に研究する学問は音声学と言われます。

母音や子音などの個々の音のみならず、発話全体に関わるイントネーション、アクセント、リズム、話速、ポーズ（休止）といった事柄も扱われます。

この演習では、参加者の関心に沿った研究テーマを設定するにあたり、まずはじめに音声学的な基礎を身に付け、話しことばの音声を科学的に分析する手法を学びます。

その後、参加者の関心あるテーマに関する文献を読みながら、研究テーマを見つけ、最終的には話しことばに関する研究論文を執筆するための準備作業を行います。

## 授業の到達目標 Objectives

学際領域演習全体を通じた到達目標は以下の通りです：

1. 話しことばを科学的・客観的に捉えるための基礎となる音声学の基礎知識、またそれと同時に音声を科学的に分析するための手法を身に付ける。
2. 身近で無意識に用いている話しことばを現代社会とのつながりの中で客観的に捉え、現代社会において話しことばがどのような役割を果たしているのか、演習において話しことばに関する様々な文献を読み参加者同士と教員との討論を行いながら熟考する。
3. 話しことばと現代社会に関連する自身の研究テーマを見つけ、先行研究を調べ、先行研究を基に研究の問いを見つけてレポートを執筆する。
4. 参加者同士や教員との議論を基に、自身のテーマにおける研究の問いを具体化し、研究論文を執筆する。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 音声学に関連する文献を読む。
2. 自身の関心のある研究テーマに沿って、先行研究を読み、レポート作成の準備を行う。
3. 授業での討論やコメントを基に、自身のレポートを執筆する準備を行う。
4. 予備調査として、自身の関心ある研究テーマに沿った音声資料の分析を行う。

**授業計画**  
Course Schedule

授業初回はオリエンテーションおよび教材資料の説明を行います。

2回目以降は、話しことばにおける音声の知識を深めるための教科書を輪読します。各自が担当箇所をあらかじめハンドアウトにまとめ、発表し、その発表を基に討論を行います。

輪読の発表・討論と同時並行して、音声分析ソフトPraatを用いた音声資料の分析手法を学びます。各自が興味ある音声資料を持ち寄り、授業内に分析を行い、その結果を随時発表します。

さらに、参加者の関心あるテーマに沿って音声実験のデザインを考え、予備的な発話実験・知覚実験を実施し、その分析を行います。

学期末には、教科書の輪読で得た基礎知識と音声分析の手法を基に、各自のテーマに沿って音声資料を用いて分析を行い、その結果・考察に基づいてレポートを執筆します。

**教科書**  
Textbooks

プレ演習の開始前までに最終的に決定し、改めてこのページでお知らせします。

現時点での予定は『日本語音声学入門 改訂版』 齋藤 純男 著、三省堂書店です。

**参考文献**  
Reference Books

下記、備考・関連URLを参照してください。

**評価方法**  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	50% : 演習における口頭発表、討論への参加度 50% : 各自の関心あるテーマに沿って執筆する学期末のレポート

**備考・関連URL**  
Note・URL

<https://saitoyoshio.jimdofree.com/%E9%9F%B3%E5%A3%B0%E5%AD%A6/>

(齋藤純男先生のホームページ。音声学に関する情報や文献が紹介されています)

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
502	学際領域演習 I (岡本暁子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	岡本 暁子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

行動生態学と隣接諸科学I

## 授業概要 Course Outline

ヒトを含む地球上の生き物は、何千万年何億年という時間をかけて変化し、まわりの環境に適応してきた。行動生態学は、生物の行動と生態の進化に関わるさまざまな問題を扱う分野である。本演習では、行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をすすめる。同時に、履修者の興味関心にあわせて、行動生態学の隣接諸科学についての知識も深めていく。

## 授業の到達目標 Objectives

行動生態学の基本的な知見を習得し、特定の生物もしくはトピックについての研究をする準備をする。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

指定されたテキストの予習復習をする。

## 授業計画 Course Schedule

第1回は演習のガイダンスを実施する。その後の回は、演習参加者による報告と討論、資料を参照しながらの討論などをおこなう。

## 教科書 Textbooks

第1回目の演習時に提示する。

## 参考文献 Reference Books

演習中に適宜紹介する。

## 評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	期末の発表とそのまとめを評価する。
平常点評価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

授業実施方法については適宜連絡する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。  
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.  
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
503	学際領域演習 I (ブロッソーシルヴィ)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ブロッソー シルヴィ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

映画研究演習、映画学入門の演習

## 授業概要 Course Outline

本セミナーは、映画の分析（映画研究、映画学）の入門講座である。

映画はショーであり、楽しみをもたらすものだが、研究の対象ともなりうるものである。

映画は、娯楽のために鑑賞することがほとんどである。映画鑑賞は、いわば「感覚の時」とも言え、感動、恐怖、喜び、悲しみ、不安、動揺などを体験する時間である。また映画は、ある話、テーマ、(フィクション上または実在の)人物を、(自然または人工的に作り上げられた)特有の空間において発見する機会であり、知られざる運命や状況、世界に出会う手段である。映画は、画像と同じく、世界の一つの表象である。したがって、映画鑑賞は、我々のいる世界、状況、社会について考える機会となる。映画が、常に世界の表象である、としたら、それをどのように読み解けばよいのだろうか。またその表象をどのように描写し、理解し、解釈すればよいのだろうか。映画の分析は、これらの質問(何が?どのように?なぜ?)に答えてくれる。映画を分析することで、より多くのことが理解でき、より多くの知識が得られ、より多くのことに関心が持てるようになる。

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダール(1930-フランス・スイスの監督)の映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはサブテキストかイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考えや予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の関係を見つけるか?

映画内での、話、メッセージと美学の関係はどのようなものか?

ある映画について、歴史的、社会的、美学的に興味深い点はどこか?

一部のイメージについて、興味深い点はどこか?そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか?

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか?こうした問題に注目する。

## 授業の到達目標 Objectives

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

具体的な例を用いて、映画分析を構成する要素について学ぶ。

日本語字幕付きの複数の映画を鑑賞し、その一部について詳しく分析する。

映画はかならず意味とメッセージを持ち、時にはイデオロギーをも持つ。

映画は型にはまった考え方を見せることもあれば、逆に新たな考えや予想外のイメージを見せることもある。

どのように、内容と形式の関係を見つけるか?

映画内での、話、メッセージと美学の関係はどのようなものか?

ある映画について、歴史的、社会的、美学的に興味深い点はどこか?

一部のイメージについて、興味深い点はどこか?そうしたイメージは、どのような技術と、どのような構成を用いて組織されているか?

面白い部分、重要な部分、意味深い部分はなにか?こうした問題に注目する。

事前・事後学習の内容  
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画  
Course Schedule

本セミナーでは、ジャン＝リュック・ゴダールの映画を紹介し、研究する。

本セミナーにおいては、特に背景、セット、そして空間と風景の表象、すなわち映画に現れる場所、風景、そこに用いられた光、色彩といった要素に注目する。アクションが起こる場所はどこか？こうした空間の劇的な機能はどこにあるのか？映画の中、フィクションの中、話の中における風景の役割はどのようなものか？風景は、映画の話や、人物、時間、空間を設定するための単なる背景としてだけ存在するのではない。風景は、ある雰囲気・環境や、感情をもたらすほか、様々な意味、レフェランス（ほかの芸術作品の暗示など）、象徴といった要素をももたらす。どのような風景がそこにあるのだろうか？どのようにそれを描写すればよいか？風景は何を意味しているのだろうか？

本セミナーにおいて、学生各自は、自ら選択し、注意深く鑑賞して分析・研究した映画を紹介する。学生は自由に映画を選択できる。紹介する映画は製作年代を問わず、日本映画、米国映画、その他の国の映画など、国籍も問わない。映画分析は、「好き・好きではない」「良い・良くない」といった個人的な意見を超越したものである。好きでない映画であっても、大変面白い分析をすることが可能である。

教科書  
Textbooks

資料のコピーを配る

参考文献  
Reference Books

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	試験: 0% 試験なし レポート: 40% 映画分析の論文 平常点評価: 60% 発表 もちろん出席と参加度を確認 その他: 0% なし

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
504	学際領域演習 I (マルティ・オロバル ベルナット)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	マルティ・オロバル ベルナット
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

近世・近代における宗教思想 (西洋・日本の宗教事情を中心に)

History of Religious Thought in Modern and Contemporary Times (Religions in the West and Japan)

## 授業概要 Course Outline

このゼミでは思想史学・宗教社会学という視座より、西洋・日本における宗教史に対する理解を深め、宗教と社会、宗教と政治、宗教と道徳との関係について考えていきたい。「近代化と宗教」という問題、つまり近代化がもたらした様々な変化が宗教にどのような影響を与えたかを分析・理解するのがゼミの最終目標となる。先ず、近代は信教の自由と共に世俗化が進んだ時代であるといえる。その中で、科学の進歩と共に、新たな思想伝統が誕生し、宗教の意義を否定する思潮が台頭した。中には、近代化に適応し、宗教と科学を融合させようとした、宗教の内面化 (最近の用語を使用すれば「マインドフルネス化」) を試みようとした宗教家も存在する。しかし、その一方で、宗教界において近代化・新たな思潮に反発した原理主義も誕生し、宗教アイデンティティ問題、宗教と国家主義との深い関係も見られる。この二つの要素、「近代」及び「宗教」の複雑な関係についてゼミ生と一緒に考えていきたい。

This seminar is dedicated to the study of the history of religion in the West and Japan from the perspective of the history of ideas and the sociology of religion. We will consider topics as the relationship between religion and society, religion and politics, and religion and morality. The final goal of the seminar is to analyze and understand the interrelation of modernization and religion, that is, how the changes produced by modernization have affected religion. It can be said that modernity, especially in the West, is an era when secularization has spread, along with religious freedom. Together with the progress of science, new traditions of thought were born, and new currents of thought denying the significance of religion emerged. Some religious thinkers have tried to adapt to modernization and combine religion and science, or to interiorize (privatize) religion (as it can be seen in recent phenomena as the “mindfulness” trend). On the other hand, a completely different reaction to modernity in the religious world is fundamentalism, which denies modernization and all the new currents of thought. This ideological retreat, which is fundamentalism, is also intimately related to other questions, as religious identity problems and the relation between religion and nationalism. In sum, I would like to reflect upon the complex relationship between “modernity” and “religion” together with the seminar students.

## 授業の到達目標 Objectives

ゼミの主な目的を以下の要点にまとめる

- ・宗教思想史・宗教社会学の基礎知識を身につける。
- ・思想史・宗教思想史の観点から、西洋人・キリスト教信者のものの見方自体、そして彼らがどのように異文化・異宗教を理解したのかを分析する。
- ・日本の伝統的宗教について学び、その独自の変容、または西洋の影響による変容を理解する。
- ・宗教思想史・宗教社会学から現代世界や現代日本の宗教動向を学ぶ。

The main purposes of the seminar are summarized in the following points:

- ・Acquire basic knowledge of the history of religious thought and sociology of religion.
- ・Analyze the Westerner's (Christians) understanding of themselves, and how they viewed different

cultures and religions from the perspective of the history of religious thought.

- Learn about traditional Japanese religions and understand their transformations, and also how they were influenced by Western thought and religion.
- Learn about the religious trends of modernity from the perspective of the history of religious thought and sociology of religion.

#### 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

教科書は特になく、事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。基本的には日本語で著された文献（学生の能力・ニーズに応じて外国語で書かれた著作も使用する）を読解、分析し、その内容について皆で自由に討論する。また、卒論を書きたい学生は自分自身で問いを立て、自分にとって最も面白い研究主題を絞り、卒業論文を完成させる。宗教に関するものであれば、研究テーマの選択は完全に自由である。卒業論文の執筆で使用する可能な言語は日本語、スペイン語、英語、フランス語またはカタルーニャ語である。

We will not use any textbooks. I will distribute the reading materials (academic papers or book chapters) in advance. Students must read and analyze documents in Japanese (also use works written in foreign languages depending on students' abilities and needs) and discuss the contents freely with everyone. However, if members of the EDP join the seminar, I will try to provide materials in English. Students who want to write a graduation thesis must narrow down the research topics that are most interesting to them and complete their graduation thesis. As far as the research topic is related to religion, students have complete freedom to choose. Possible languages for writing the thesis are Japanese, English, Spanish, French, or Catalan.

#### 授業計画 Course Schedule

- 第1回：導入Introduction  
第2回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 I  
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe I  
第3回：中世ヨーロッパの世界観。中世ヨーロッパにおける宗教と社会、宗教と政治 II  
Worldview of medieval Europe. Religion and Society, Religion and Politics in Medieval Europe II  
第4回：中世ヨーロッパに誕生した「宣教」の意義  
The meaning of “mission” in medieval Europe  
第5回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）I  
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) I  
第6回：大航海時代におけるキリスト教宣教活動（アメリカ・アジア）II  
Christian missionaries during the Age of Discovery (their activities in America and Asia) II  
第7回：ルネサンス文化と宗教改革  
Renaissance Culture and Reformation  
第8回：宗教改革と近世国家 I  
Reformation and the Modern State I  
第9回：宗教改革と近世国家 II  
Reformation and the Modern State II  
第10回：絶対君主制と宗教  
Absolute monarchy and religion  
第11回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 I  
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary I  
第12回：西洋の植民地主義とキリスト教宣教師活動との関係 II  
Relationship between Western colonialism and the Christian missionary II  
第13回：啓蒙主義と宗教。政教分離の芽生えについて  
Enlightenment and religion. On the origin of the separation of Church and State  
第14回：総合討論  
General discussion

#### 教科書 Textbooks

#### 参考文献 Reference Books

<b>評価方法</b> Evaluation
---------------------------

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポ ー ト Papers	30%	期末レポート
平 常 点 評 価 Class Participation	50%	演習への出席、課題の達成度、討論への取り組みなどを、総合的に評価する
そ の 他 Others	20%	課題

<b>備考・関連URL</b> Note・URL
-----------------------------

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
505	学際領域演習 I (室井禎之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	室井 禎之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

コミュニケーションとことば

## 授業概要 Course Outline

私たちの社会を作り上げているものはそのメンバーの間のコミュニケーションです。もちろんコミュニケーションにはさまざまな種類のものがありますが、ここで取り上げるのは、ことばによるコミュニケーションです。しかしこれらとの関連で、異なるタイプのコミュニケーション（たとえばノンヴァーバルコミュニケーション）について考えることもできます。

参加者は自分の問題意識に従って研究テーマを設定することができます。たとえば、さまざまなタイプのコミュニケーションにおけることばの働き、言語のヴァリエーション（地域の変種、社会的変種など）、社会とことば、言語政策、対人関係のことば、異文化コミュニケーション、などが考えられます。授業では、それぞれの問題意識に沿って、どのようなアプローチがありうるのか、先行研究には何があるのかなどを案内しながら、考えます。演習ですから、学生の発表とディスカッションを中心に進めていきます。

あらゆるコミュニケーション形態の基礎となっているのは個人間のコミュニケーションです。そこにおけることばの働きについては、語用論 (Pragmatics) と呼ばれる言語学の一分野での研究を知ることが不可欠です。授業ではその主要な理論や分析方法についての導入も行います。また必要に応じてことばの働きそのものについての紹介もします。

## 授業の到達目標 Objectives

1. コミュニケーションとことばについて自覚的になり、自らのコミュニケーションを反省的に見、改善につなげる試みが行えるようにすること。
2. コミュニケーションに関わるファクターと、それらの働きについて知ること、他者のコミュニケーションを理解する能力を高めること。

以上2点が本演習の I から IV を通して学修することによって到達する目標です。最初の段階である I ではコミュニケーションとことばについて考えるための基礎を得ることに重点を置きます。具体的には、参加者の問題意識に対応するテーマの基本的な文献を選び、その理解を通じてコミュニケーションに対する感覚を養い、分析のための手法を得ます。また次の段階への展望を開きます。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき振り返りを行い、追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。教科書を読み、その内容について考察すること。授業後に振り返りを行うこと。

授業計画  
Course Schedule

第1回の前半は簡単なオリエンテーションを行います。輪読・発表の順番は3月中旬に調整します。

2回目以降は教科書の輪読および発表と討論を行います。

輪読：教科書を読みながら、コミュニケーションにおけることばの働きについて学びます。参加者が分担して発表し、不明点などを全員で検討します。

発表と討論：参加者が自分のテーマについて発表し、それを全員で検討しながら議論を深めてゆきます。

教科書  
Textbooks

今井邦彦『語用論への招待』（大修館）

参考文献  
Reference Books

D. スペルベル/D. ウィルソン『関連性理論』（研究社）

P. グライス『論理と会話』（勁草書房）

安井稔『言外の意味』（研究社）

J. サール『言語行為』（勁草書房）

他授業時に随時紹介する

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	学期中の成果と次の段階への展望をまとめたレポートを学期末に提出
平常点評価 Class Participation	50%	授業時の口頭発表、およびその振り返り、ディスカッションへの参加状況
その他 Others	%	

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

# 学際領域演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
506	学際領域演習 I (ロペスアルフレド)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ロペス アルフレド
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		グローバル科目 > 演習 または 所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

## 副題 Subtitle

西洋文学論

## 授業概要 Course Outline

文学はどう定義すればいいのか？その本質は何であるのか？読者は本を読むということから何が得られるのか？人間にとってフィクションが必要なのか？ヨーロッパではこのような質問に答えようとする人が、西洋文化が形成され始めるや否や次々に現れてきました。ギリシャ・ローマ時代からアリストテレス、ホラチウスを中心に文学についての考察は一つの欠かせない要因となっているのは間違いのないことです。18、19世紀のロマン主義を経て、とくに20世紀以降では人文科学の目覚ましい発展の中で文学論がなくてはならない学問として認められるようになりました。

この講義では西洋で文学について考えられたことを紹介しながら本を読むことはどこまで有意義で楽しいことなのかを確認して、様々な意味での文学の重要性を強調し、抽象的な考え方を発展させ西洋文化の理解を深めることを目指します。

## 授業の到達目標 Objectives

文学の理解を深める。これにより西洋文化をより分かりやすくする。

## 事前・事後学習の内容 Preparation and Review

各授業の前にその日を読む予定のテキストを確認して、その後も一度理解度を確認する。

## 授業計画 Course Schedule

- 第1回：本講義の目的と概要について説明します。
- 第2回：文学とは何か(1)
- 第3回：文学とは何か(2)
- 第4回：文学とは何か(3)
- 第5回：アリストテレスの「詩学」(1)
- 第6回：アリストテレスの「詩学」(2)
- 第7回：アリストテレスの「詩学」(3)
- 第8回：アリストテレスの「詩学」(4)
- 第9回：アリストテレスの「詩学」(5)
- 第10回：アリストテレスの「詩学」(6)
- 第11回：アリストテレスの「詩学」(7)
- 第12回：アリストテレスの「詩学」(8)
- 第13回：アリストテレスの「詩学」(9)
- 第14回：学生の発表

## 教科書 Textbooks

アリストテレス・ホラティウス 「私学・詩論」 岩波文庫  
 プレ演習のほうで  
 内多毅 「現代文学理論入門」 創元社を使用する。

参考文献  
Reference Books

T. イーグルトン 「文学とは何か」 岩波書店

評価方法  
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	出席や授業に取り込んだこと、発表を評価する

備考・関連URL  
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>